

学会長辞任から一年

山 崎 智 子

学会誕生から26年を迎えることとなった。

私は昨年の総会において学会長の辞任が認められ、肩の荷をおろし開放感を味わって早くも1年が過ぎたこととなる。設立以前からかかわり、1/4世紀を学会とともに歩み、今日の発展を目のあたりにすることが出来たこと、感慨深いものがある。折々のエピソードや思い出はその都度述べてきたので詳細は省くとして、学会員の皆様方の参加、協力によって、とりわけ運営委員の方々の強力なパワー、支えは何ものにも変え難いものとして今日の発展をもたらしたと思う。

私自身は設立当初から運営委員、委員長、学会長、代理、学会長として切れ目なく、その役を担って来たこととなる。この間、学科・学部の発展も目ざましく急速な教員増によって、連続でかかわっていた役も隔年に、そして3年毎のかかわりへと変化してきた。もとより学部内での仕事量もすさまじい勢いで増加していたが、なぜか私の交代は無視され、連続25年という不倒記録を樹立するに至った。

従ってこの間のめざましい発展の経緯は竹の節目の如く、私の心に深く刻まれている。

- 学会として発足に至る経緯
- 毎年の集会の開催
- 創設30周年記念行事（300万円予算での実施）
- 公開講座の実施（学部共催としてバトンタッチ）
- 学会集録から学会誌へ
- 奨学制度の発足
- 学会の開放（卒業生以外への）

等々、は台風その他の諸々の事情によってもとぎれることなく継続してきた。高知女子大学の中にあって、他学部にさきがけての独自の発想による学会としての足跡である。学会は学部と表裏一体であると考えてきた年月であった。この間の学部の発展もめざましく修士、博士課程も発足し、質的にも十分応えられる体制が整えられてきたと考え頼もしい限りである。

学会の今後の発展は揺るぎないものと思う。さらに充実発展し、活発な学会活動が続けられることを信じ、祈念している。創設者である和井先生も五台山の上で喜んでおられるにちがいない。